

青山学院大学総合研究所プロジェクト

『声』と『身体』の探求——現代欧米詩劇における「ギリシア劇」と「能」の再生

公開講演 能の中の六条御息所（源氏物語） 「葵上」「野宮」

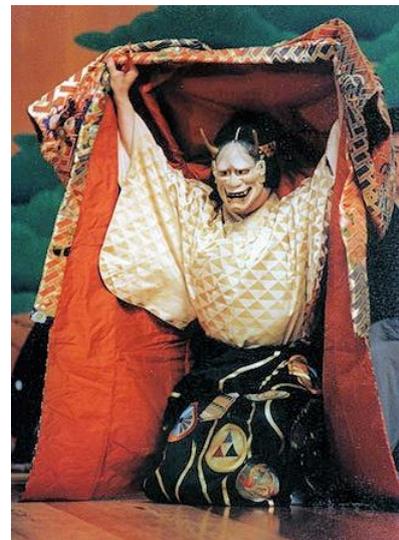
講師

坂井 音隆 観世流シテ方 能楽協会会員 観世会会員 青山学院大学日本文学科卒業生
坂井 音晴 観世流シテ方 能楽協会会員 観世会会員
武田 文志 観世流シテ方 能楽協会会員 観世会会員
(聞き手) 廣木一人 青山学院大学文学部教授

美貌・教養・家柄、何ひとつ人に劣ることのない六条御息所は、年若き恋人光源氏から次第にかえりみられなくなっていきます。折も折、源氏の姿を一目見ようと、葵祭りの行列の道筋に車を止めていた時、源氏の正妻、葵上の一行から辱めを受けます。その後、六条御息所は世を悲観して、伊勢に斎宮として下る娘とともに一時、嵯峨野の野宮に籠もります。そこへ、再び源氏が訪れる。

『源氏物語』に描かれたこの六条御息所をめぐる話を、世阿弥は「葵上」で、世阿弥の女婿、禅竹は「野宮」で形象化しました。高貴で誇り高く物静かな女性の、ある時は物の怪（般若）として葵上にとりつくまでに思いを募らせる女としての愛憎を、二曲の能はそれぞれ独自に気品高く描きます。

本講演では新進気鋭の観世流シテ方から上記のような能における六条御息所の魅力、その演技のむずかしさを一部実演を交えながら語ってまいります。



2007年11月19日（月曜日） 午後6：00～7：30

青山学院女子短期大学
(青山キャンパス)

図書館棟4階L402教室
(聴講無料)

青山キャンパス
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-8111(代)
JR山手線、東急線、京王井の頭線 他
「渋谷駅」より徒歩10分
地下鉄「表参道駅」より徒歩5分



お問い合わせ

総合研究所事務室

info@ri.aoyama.ac.jp